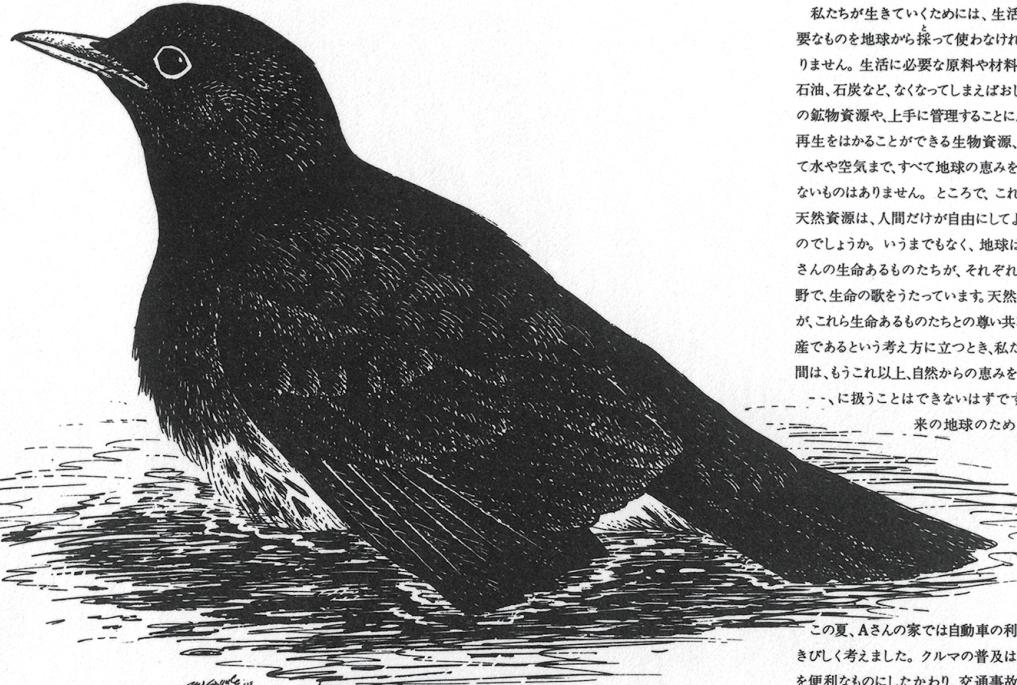


# 身近な、身近な自然保護



水あびをす クラゲミ(ヒタチ科)  
水あびは、トリたちのごみづけの行為です。  
夏は体温を下げる目的もありますが、一般に、からだに虫が寄生するのを防ぐと、  
いつも羽毛を整えておくとい、彼らにとって生きるために手段としての水あびなのです。  
なお、キジは水のかわりに砂あびをし、スズメは水あびも砂あびもします。

## 「自然」を使わせてもらう、という気持で

私たちが生きていくためには、生活中必要なものを地球から採って使わなければなりません。生活中必要な原料や材料——石油、石炭など、なくなってしまうおしまいの鉱物資源や、上手に管理することによって再生をはかることができる生物資源、そして水や空気まで、すべて地球の恵みを受けないものはありません。ところで、これらの天然資源は、人間だけが自由にしてよいものでしょうか。いまでもなく、地球はたくさんの生命あるものたちが、それぞれの分野で、生命の歌をうたっています。天然資源が、これら生命あるものたちとの尊い共有財産であると考え方に立つとき、私たち人間は、もうこれ以上、自然からの恵みを粗末に扱うことにはできないはずです。未來の地球のためにも。



最後は、Cさんから、ワリバシを節約しようという提案です。Cさんの試算によれば、たとえばカラマツ製のワリバシを10人に1人が1日1せん使ったとして、約1000万せんとなり、これは、タテ30センチ・ヨコ30センチ・長さ3メートルの材木を833本、1日で消費することになるといいます。ワリバシは、いつも使うものではありませんが、それでもこの消費量の大きさを考えると、いま、わが国でぎりぎりといわれる木材資源をもっと上手に管理、活用することに关心を持っていたいと思います。わが国は、生産量よりも消費量のほうが大きく、その不足分

を外国からの輸入でおぎなっているからです。そして外国でも、緑の大地が失われていくことが、いま問題になっています。ワリバシを節約する——そのワリ

Bさんの家では、水の節約を心がけました。川の水は水道の源、どんどん水を使えば、発電所をつくると同じように、自然を破壊してダムがつくられるでしょう。水を節約して川からの取水を減らし、川の水をきれいにして海へかえす——水がきれいになれば、水に棲む昆虫や魚やカワセミやサギたちももどってくるでしょう。さて、水道の蛇口を閉めてメーターを見ます。指針が動いていれば、漏れ水です。蛇口からボタボタもれているだけで、1日200リットルのムダになるというのですから、おどろきです。次に

Bさんは、お風呂の残り湯を活用し、入浴後は捨てないで洗たくや撒き水に使っています。それから、水洗便所の貯水槽にはレンガをひとつ入れました。貯水槽の水は多めで、レンガ1コ分の水がなくても十分に流せます。これだけでも、1日ひとりあたり10リットルの節約です。また、Bさんは、歯をみがいているあいだは水道の蛇口を閉めています。コップ3杯ほどですむ歯みがきも、水を流しづらなしにしておくとどうなるか。Bさんの坊やの計算では、1分間に約6リットル、約3分では18リットルのムダ。3人家族で朝と夜みがくとして、ムダにした水は1日100リットル以上にもなり、「ずいぶんもったいないことをしていたんだなあ」という感想です。

パシ1本からでも、背後に大きな問題がひそんでいることを知りたい、というのが、Cさんからのメッセージです。

——この夏、あなたはどんな自然保护をしましたか。しようと思いますか。



財団法人 日本鳥類保護連盟  
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリーズとして制作するものです。

トリからのメッセージ 74